

調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 柴田 利勝



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 元年 11月 ⁶ 7日から11月8日まで (1泊2日) ^{2泊3日}	
調査先・研修名	第81回全国都市問題会議	
会場名 (会場所在地)	鹿児島県霧島市国分清水 309 霧島市国分体育館	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	今回の会議では、防災に関する行政の施策及び自治会等をはじめとする地域のコミュニティ組織の取り組みについて、霧島市における事例を見るとともに、市長及び学識経験者の皆様の経験や研究成果に基づいた講演と報告、そしてパネルディスカッションを通して、「防災とコミュニティ」について学び、各都市が抱える共通した課題の解決への糸口になるよう学んできたい。	
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要	依頼先 (名称)
同行者名	山田治義・富田宗一・ 本沢勝 ・西本潤・長江公夫・三木雪実 戸田由久・宮菌伸仁・柴田利勝・高島淳・朝井賢次・ 水野良一 松名 (本人含む)	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 2 年 2 月 10 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 柴田利勝



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 1 年 11 月 6 日から 11 月 8 日まで (2 泊 3 日)
調査先・研修名	全国都市問題会議
会場名 (会場所在地)	鹿児島県霧島市
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	自然災害について全国各都市の災害に対する地域住民の取り組み、都市の防災取り組みなどについて勉強することができた。
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
以下別紙	

全国都市問題会議

11月7-8日 鹿児島県霧島市

防災とコミュニティについて

日本は世界的に災害の多い国であり、活火山は世界の10%存在する国である。また、TUNAMIは世界共通語となっているし、年間降雨量は世界平均の2倍に達している。この為、火山や地震・地震による津波、集中豪雨、台風、豪雪等々被害を受けやすい。また、都市化が進み昔住むことのなかった地域へ住宅地が拡大していて、被害が大きくなっている。

このようにして人々の災害、防災への関心は高まり、大規模災害や近年の幾多の気象災害の経験から公助の限界が認識され、防災の原点として住民一人一人の自助とともに近くの住民の地域コミュニティによる共助が再評価されるようになってきている。

コミュニティを「共属意識と連帯感を抛り所とする集団」と捉えれば、防災に関するコミュニティは、狭い地域性を有する。地域コミュニティばかりではない、自治体同士の連携も一種の「コミュニティ」である。

霧島市をはじめ5市2町で構成される「環霧島会議」は、霧島山を軸に市町境や県境を越えて連携を図るものである。この会議は防災を活動の軸の一つに位置付け、防災相互応援協定の締結や「霧島火山防災マップ」の作成など、共通の課題を連携して協働している。

志学館大学 原口 泉 氏

鹿児島の歴史から学ぶ防災の知恵

南九州のシラス文化と自然災害

南九州は江戸時代「洪水—台風—旱魃—虫害—疫病」のサイクルに加え火山爆発、地震、津波が被害を大きくした。けいこのような中で南九州の、シラス台地は始良火山の爆発によって火砕流が高温で堆積し誕生したもので、温度の低下とともにガスが抜け空洞や亀裂が多くできた。これを「ガマ」という、そうしてこのガマが縄文人の住まいとなり、その後山岳密教の寺院の役割や山伏達の修験の場にもなった。近世になると食糧の貯蔵庫や農具や肥料の保管小屋としても使われる。中世にはこの空洞が集中豪雨のはけ口ともなり、また、湧水源でもある、これが「ガマ文化」で災害常襲地帯の南九州に生まれた独自のシラス文化である。

門割制度という防災農法

門割制度というものが江戸時代あった。耕地を割り当て、一定期間ごとに割り換えを行い、災害によって作物の収穫が出来なかったり、減少したりした場合、その被害が壊滅的な打撃とならないようにする為で、「被害の場合」と「危機の

分散」があり、農業経営を安定化させ、一定の年貢が確保できるという長所がある。

人災から歴史資料を守る

自然災害による歴史的資料が失われる心配がある、鹿児島では鹿児島城（鶴丸城）が焼失した。残っていた私学校と二の丸も西南戦争で焼けた、私学校には藩記録所の文書庫があったが、以前に搬出され難を免れた、島津家の東郷重持は決死の覚悟で政府軍に資料の引き渡しを求め文書箱79点を救出することに成功した、この文書は源頼朝以来の島津家の資料であり、歴史的に重要な資料であり、現在東京大学史料編纂所に国宝として保管してある。

太平洋戦争でも鹿児島県立図書館の文献8万冊を児童文学作家が守った。このように歴史史料は多くの先達に関わり、国民の財宝とあってよいほどのものとして守られてきた。

尚桐学院大学 人文社会学群長 田中重好 氏

コミュニティ（小学校区だけでない）やボランティアによる災害時の活動が注目されるようになったきっかけは、阪神淡路大震災以降である。この時に公助、共助、自助、が一般的になり、同時に行政の限界も認識されるようになった。ボランティアは以前は社会福祉分野に偏りがちであったが、量的、質的に拡大し、かえて1998年特定非営利活動促進法が制定され、ボランティア活動が盛んになった。コミュニティは自治会、町内会の別名と考えている人が多いしかし、それだけではない、これを理解するには、

- ① コミュニティは社会関係、社会集団、地域的アイデンティティの三つの要素からなる境界を持った住民の魂である。ここでは、学校、企業も含まれる。
- ② コミュニティはさまざまな地域の総称である。
- ③ コミュニティは重層的な構造を持っている。
- ④ 個々のコミュニティはは個性的であり、その為
- ⑤ テーマごとにコミュニティを考えることができる。
- ⑥ コミュニティは行政からつくるものではない、自生的な存在。

日本は安全な場所は無いが、大雪の降る青森でさえも住んでいる、自然とうまく付き合っている。必要性と実体との差がある。防災対策を見直して政策展換が必要である。日本の防災対策は中央集権的行政中心であった。しかしアメリカはこれではだめで、住民の参加が少ない、ボランティアも行政の中に収められていた。防災も民間の動きに注目、行政から社会へ、中央から地方へ、個人と住民が一体とならなければ効果がない。自分で自分で力を評価し、不足する部分をどうするか自己判断する。これを継続していき防災を高める。

行政は色々な事が出来る、その失政を更に生かせる事が行政力の路である。そうして、それを他の市町にも知らせる事で防災力が高まっていく。こうして全国

の地域ごとの経験を横に結ぶことである。経験の共有化によってこそ地域からの防災力強化が実現する。

その他

霧島市の防災取り組み。災害とコミュニティ：地域から地域防災力強化への答えを出すために。平成30年7月豪雨災害における広島市の対応と取り組みについて。防災とコミュニティについてのパネルディスカッション。など防砂について地域住民の関わりなどについて勉強であった。多いに参考になった。